

オジロワシ（タカ科） 全長 89 センチ

まだ若いオジロワシが大仙市に飛来した。

1月23日、雄物川でカモ類のホオジロガモを撮影していた時だった。6羽のホオジロガモが緩やかな流れに乗り、クチバシを背中の羽に刺し込みながらゆったりと休んでいたが、突然一斉に飛び立った。

何があったのかと上空を見上げたら、川の上空からオジロワシが近づいてきた。そのまま上流へと向かっていったが、途中から旋回をして川の中に飛び込んだ。上空から餌を探していたのでしょう、水中から魚を捕らえたようだ。



食事中のオジロワシを目ざとく見つけ、集まって来た。

浅瀬に引き上げた魚の大きさから、鮭の死骸ではないだろうか。

直ぐに数羽のカラスがオジロワシを取り囲み、餌をかすめ取ろうと横から後ろから探りを入れている。オジロワシは暫く餌を食べた後、ついに飛び立った。そこを狙っていたカラスども。我先にとおいしい餌に飛びついた。

飛び去ったオジロワシは、周辺を旋回しながら対岸の高木に移動。羽の色合いやクチバシの色などから、生後2年以内と思われる若鳥であった。昨年11月に飛来した2羽のオジロワシとは明らかに違います。



うるさいカラスに餌を少し残して、飛び立った。



尾羽はまだ白くないことから、若鳥であった。

ここは居心地がいいのか、ほとんど動く気配がありません。

上流約 1 キロ先にナダラがあるが、ここは先着のオジロワシつがいの生息地です。過去の観察経験から推測すると、後から来たオジロワシは殆どが先着隊のつがいに追い払われてしまいます。

多分、ナダラに向っても受け入れてもらえないでしょう。あまり長居できずに、滞在する期間は短いと思われます。



クチバシの先端が黒いのでまだ若い証拠。



体全体が茶褐色で、成鳥との違いがはっきり分かる。